

【近畿 ESD コンソーシアム・学生による ESD 活動書】
奈良市立一条高等学校附属中学校野外活動支援 活動報告書

教育学専修 4 回生 木下 結等

1. 実施日 2023 年 7 月 7 日

2. 場所 休暇村近江八幡キャンプ場

3. 参加者 教育学専修 4 回生 木下 結等
心理学専修 4 回生 木村直希
英語教育専修 4 回生 川口 綾菜
音楽教育専修 4 回生 藤本尋巳



キャンプファイヤーの様子

4. 活動の概要

2023 年 7 月 7 日に休暇村近江八幡キャンプ場にて、奈良市立一条高等学校附属中学校 2 年生の野外活動が行われ、その支援を目的として本学ユネスコクラブの学生が参加した。活動支援の具体的な内容は、子どもたちによるキャンプファイヤーでの活動の補助、スタンプの実施などである。

5. 参加学生の学び・感想

私が今回の野外活動支援で学んだことは 2 つある。

1 つ目はサポートの重要性である。今回、私は学生の代表として担当の先生と連絡を取りながら当日のスケジュールなどを決めた。しかし、野外活動支援に参加するのが初めてということもあり、不備があったり、当日の流れが決まらなかったりという問題が起きた。その時に周りの人たちが、アドバイスや当日までの準備を手伝ってくれたことで当日は無事に支援をすることが出来た。自分 1 人ではなく周りの人たちのサポートがあったからこそ成功することが出来たと感じた。

2 つ目は野外活動がもたらす生徒への影響である。今回支援を行った生徒の多くは新型コロナウイルスの影響で小学校の野外活動が中止になっている。その中で活動を行う前からキャンプファイヤーを楽しみにしてくれていた生徒がたくさんいた。その生徒たちと一緒に最高のキャンプファイヤーを作ることが出来たのはとても幸せな時間だった。活動後の生徒の表情やアンケートからも生徒が野外活動を通して充実した時間を過ごせたことが分かり野外活動が生徒にいい影響をもたらしたと感じた。

以上 2 つの大きな学びを忘れず、今後も野外活動支援に取り組んでいきたい。

(教育学専修 4 回生 木下 結等)

私自身野外活動支援は 2 回目だったが、晴天での野外活動支援は初めてだった。また、普段は小学生への支援活動が多いため中学生への支援はとても久しぶりであった。このように今回は野外活動支援を通じて新たな経験をたくさん積むことができた。当日は天気が不安定で途中雨が降ることもあったが、生徒達の活気によって炎は燃え続けた。生徒達と一緒に最高のキャンプファイヤーを作り上げることが出来てとても嬉しかった。

(心理学専修 4 回生 木村 直希)

私がこれまでに参加した野外活動支援は、慣れた野外活動センターで、対象も小学生であった。し

かし今回は、いつもと異なる場所で、対象も中学生だったため、新鮮で学びが多かった。特に、思いをひとつにして皆を巻き込んでいくことの大切さを感じた。コロナの影響で野外活動の経験のない生徒は皆「絶対に成功させたい」という強い思いをもっており、スタントをする側も参加する側も関係なく、皆が声を出して盛り上げていた。私たちはスタントをする側だけに注目したり、盛り上げるために率先して声をだしたりしていたが、今後はスタントに参加する側の気持ちを高めることにも挑戦していきたい。

(英語教育専修 4回生 川口 綾菜)

今回の野外活動支援では、一人ひとりが「みんなで楽しもう」と自発的に動く中学生の姿に感銘を受けた。盛り上がるための声掛けをお互いにかけて合ったり、聞こえない時には「もう一回言って」と優しく伝え合ったりと、お互いを思いやる姿が生徒から見受けられた。生徒の自主的に動き、自分達で助け合うようにしつつも、火の周りに近づきすぎているか、指示が分からず迷っている子はいないか、体調の変化はないか等、生徒のことを常に観察して見守ることが、教員には必要だと学んだ。

(音楽教育専修 4回生 藤本 尋巳)